[研究室紹介]

群馬大学工学部建設工学科 都市工学第三研究室（都市計画学）

青島縮次郎・磯部友彦

はじめに

本学部の前身である桐生高等染織学校は大正4年に創設され，その後大正9年には桐生高等工業学校，また昭和19年には桐生工業専門学校と改称された．そして昭和24年，新学制の施行とともに群馬大学工学部となった．新学制確立後，工学部は着々と整備充実を進めてきたところであるが，近年の科学技術の急速な進展に柔軟に対応すべく，平成元年には大改革を断行した．すなわち，旧来の11学科1研究施設を7大学科に改組再編し，加えて工業短期大学部の発展的解消により5学科からなる夜間主コースを設置した．これと同時に従来の大学院修士課程を廃止し，5年制の博士課程を新設したのである．

このような伝統ある工学部のなかにあって，建設工学科の発足は最も新しく，昭和54年にその産声をあげた．以来10余年，学科整備に意を注いできたが，前述の学部改組再編に伴って，建設工学科も社会基盤工学と都市工学の2大講座に改組再編され現在に至っている．社会基盤工学大講座は建設構造学と土質工学の2研究室より成り，都市工学大講座は衛生施設工学，水理環境学そして都市計画学の3研究室より成っている．なお，学科改組再編の主要な目玉は都市計画学研究室の創設にあった．

教官定員は学科全体で教授5名，助教授5名，助手4名であり，学生定員は臨時定員増加分6名を含めて46名となっている．なお建設工学科は夜間主コースをもっていない．

都市計画学研究室

都市計画学研究室は，歴史の浅い建設工学科のなかにあって，さらに最も後発の研究室となっている．昭和63年に青島縮次郎（教授）が豊橋技術科学大学より着任し，そして平成2年に磯部友彦（助教授）が名古屋大学より着任して，ようやく研究室の礎が成ったばかりのところである．ここしばらくは研究室の施設，設備の整備充実に努力しなければならないと考えている．現在，当研究室には大学院前期博士課程（修士課程）6名（うち女子1名，中国人留学生1名），4年生9名，研究生1名（中国人，女子）そして外国人研究者1名（中国人）が在籍している．

研究内容

青島は従来より，交通計画における環境評価システムに関する研究，過疎地域における公共交通システムおよび人口移動に関する研究等を手掛けてきているが，現在，その延長上として下記のテーマに取り組んでいる．

① 沿道環境保全のための都市計画的手法に関する研究

② 山間過疎地域における自家用車の相乗り，送迎に関する研究

また，群馬大学に来てからの新しいテーマとして下記のようなものがある．

③ 新幹線通勤者の類型化とその特質に関する実証的研究

④ 世帯のライフサイクルステージからみた自動車複数保有化の構造分析

以上が，主に青島が担当している研究テーマである．

磯部は名古屋大学時代より，人の交通・活動関連分析に基づく交通需要推計法に関する研究を進めてきたが，その継続研究として現在，下記のテーマに取り組んでいる．

① 休日における自動車利用交通・活動スケジュールに関する研究

② 交通・活動スケジュールの形成メカニズムに関する研究

また，群馬大学に来てからの新しいテーマとして下記のようなものがある．

③ 地域データ分析支援システムの開発

以上が，主に磯部が担当している研究テーマである．

おわりに

研究室の構成員のところで触れたように，女子学生や外国人がわれわれの周りに増えてきている．昨今，女性の社会進出とか国際化の時代とかが話題になっているが，身に染みて感じる今日この頃である．また青島も磯部も，前任地は愛知県であったためか，東京という存在はそれほど強く意識することはなかったように思う．しかし，群馬県にくると東京というのは巨大な存在であり，大変な求心力をもっているものだとつくづく思う．